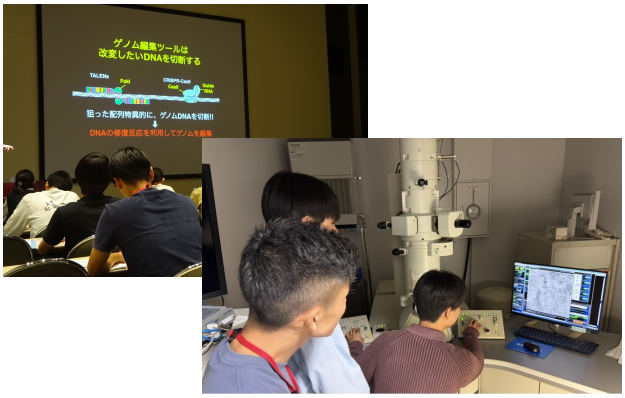
令和８年度　長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名　称	理数科キャリアデザインツアー
期　日	令和８年１０月７日（水）～９日（金）
会　場	東京方面
対　象	理数科　２年生
目　的	（１）身近なものから最先端まで幅広い科学に触れ、興味・関心を持つことにより、科学の様々な分野に対する自分の考えをまとめる。 （２）興味を持った分野について探究活動を行い、その活動の中で生じた疑問点を、自分で解決していこうと努力する過程で、自ら学ぶ姿勢を身に付ける。 （３）研究者、卒業生との交流を通して、自己を客観的に見つめ、これまでの生き方を振り返るとともに、自分自身の進路や将来設計についての意識（キャリア意識）を向上させる。 （４）訪問先で得た知識や興味を、『課題研究』に生かすとともに、学習の高い動機づけとする。
内　容	［１日目］・希望進路別研修　Ａ班　理化学研究所和光キャンパス Ｂ班　東京都医学総合研究所 ・卒業生との懇談会 ［２日目］・東京大学名誉教授　浅島　誠　様による特別講義 ・班別企業訪問研修 ［３日目］・国立科学博物館見学



理化学研究所和光キャンパス



東京都医学総合研究所



浅島　誠　東京大学名誉教授による特別講義



東京大学図書館を背にして

感想等	○今回の理化学研究所和光キャンパスへの訪問を通して、最先端の研究現場に触れ、研究の面白さや進歩を実感することができた。特に印象に残ったのは、宇宙物理学を専門とする先生の講話で、宇宙の歴史において、138 億年前と 46 億年前はほとんど同じ時間感覚で捉えられ、「たかが 3 倍」と考えられるという話が興味深かった。私たちの日常とは大きく異なる時間の捉え方に触れ、新しい視点を得ることができた。また、理論系の研究室では、研究者が研究に集中できる環境が整えられていることが分かった。さらに、創薬の研究所では、最先端の精密機械を活用することで、研究の効率化が進んでいることを実感した。内容は難しかったが、実際の研究を間近で見学でき、とても貴重な経験となった ○研修では講演をとおして先生方の研究分野における専門的な知識を学ぶことができ、先生方それぞれがどのように研究職という仕事にどのように向き合っているのかを知ることができました。自分は医療機器の研究や開発に興味があるので、研究職がどのような仕事であるのかを学んだことで仕事像をより具体的にすることができました。特に答えのない問題を設定する力が必要だったり完全に実力が試されたりする厳しい世界であるものの、好きを突き詰めることや国際的な幅広い人脈を獲得することができるということが改めて魅力的に感じられました。また、電子顕微鏡室を見学した時、多くの研究の基盤となる観察ができる設備で研究職の中でも他の研究を支えるという選択肢もあるのだと知ることができました。 ○浅島名誉教授のお話から、生命が誕生してからどのように私たち人間が生まれたのか生命科学の面から学ぶことができました。私が一番興味深かったのは未分化細胞から体の器官を生成することができるようになったことです。何十年もかけて研究を重ねた結果、器官が作られる仕組みを解明して、最終的に再生医療にこの技術が役立てられていることがわかり、生命科学にはまだ多くの可能性があると思いました。また浅島名誉教授の研究に対する姿勢は私たちの研究にも通じることがあって、これからの SSR の研究では仲間とのコミュニケーションを通して意見交換をし、あらゆる視点から考察していきたいと思いました。 ○卒業生との交流会では、進路や大学生活、将来の仕事について考えるきっかけを得ることができた。特に印象に残ったのは、進路を選ぶ際には、周囲の意見だけで決めるのではなく、自分が何をしたいのか、何に興味があるのかを理解することが大切だという点である。また、実際に経験した人の話を聞くことで、進学後の生活や学びについて具体的に考えることができた。進路選択では、大学や学部の名前だけで判断するのではなく、そこで何を学び、どのような経験ができるのかを知ることが重要だと感じた。これからは、自分の興味や関心を深めるとともに、さまざまな人の話を聞きながら、自分に合った進路を考えていきたい。

	○いであ株式会社さんでは、会社の事業内容についての紹介と、事前質問についての回答がありました。インフラ整備とはどういうことをするのか、建築との違いなどを知ることができました。環境分野の方からのお話を初めて聞きました。一見すると正反対に見える「インフラ整備」と「自然環境の保護」ですが、いであ株式会社さんでは工事の始まる前の段階から「環境アセスメント」を通じてインフラ整備をした時の影響を調べ、対策を考えていることを知りました。環境の専門家とインフラ整備の専門家が同じチームで一緒に考えることで、自然を守りながらより良い社会基盤づくりを行なっている点に感銘を受けました。また、いであ株式会社さんについてのお話だけでなく、課題の見つけ方やどうやったら相手に自分の伝えたいことをわかりやすく伝えられるかなど、これからの研究に活かせることを学ぶことができました。普段接することのない「環境分野のプロフェッショナル」の仕事に触れ、環境問題や社会貢献の具体像が見えました。将来働く上で、「社会にどう貢献したいか」という視点を持つきっかけになりました ○このキャリアデザインツアーでは、理化学研究所や東大の教授の講演や企業訪問や国立科学博物館などを通して、科学技術の発展や研究の奥深さについて学ぶことができた。それぞれの訪問先で新たな発見があり、学校の授業だけでは得られない貴重な経験となった。そして卒業生との交流会では、大学受験の勉強方法や大学生活について具体的な話を聞き、自分の進路について考える良い機会になった。更に仲間と共にこの研修に参加して学んだことや感じたことを共有する中で、友情を深めることもできた。今回のキャリアデザインツアーを通じて、科学への関心が高まっただけでなく、仲間と協力して互いに刺激し合うことの大切さも実感した。この経験を今後の学習や進路選択に生かして仲間と共に成長していきたい。